

潮流

岬を見に行こう。



今号は、岬の特集。島では、岬＝鼻。つまり今号は、“島の鼻特集”。夏休みは、観光MAPと潮流を片手に、“島の鼻”を見に来ては如何でしょうか。



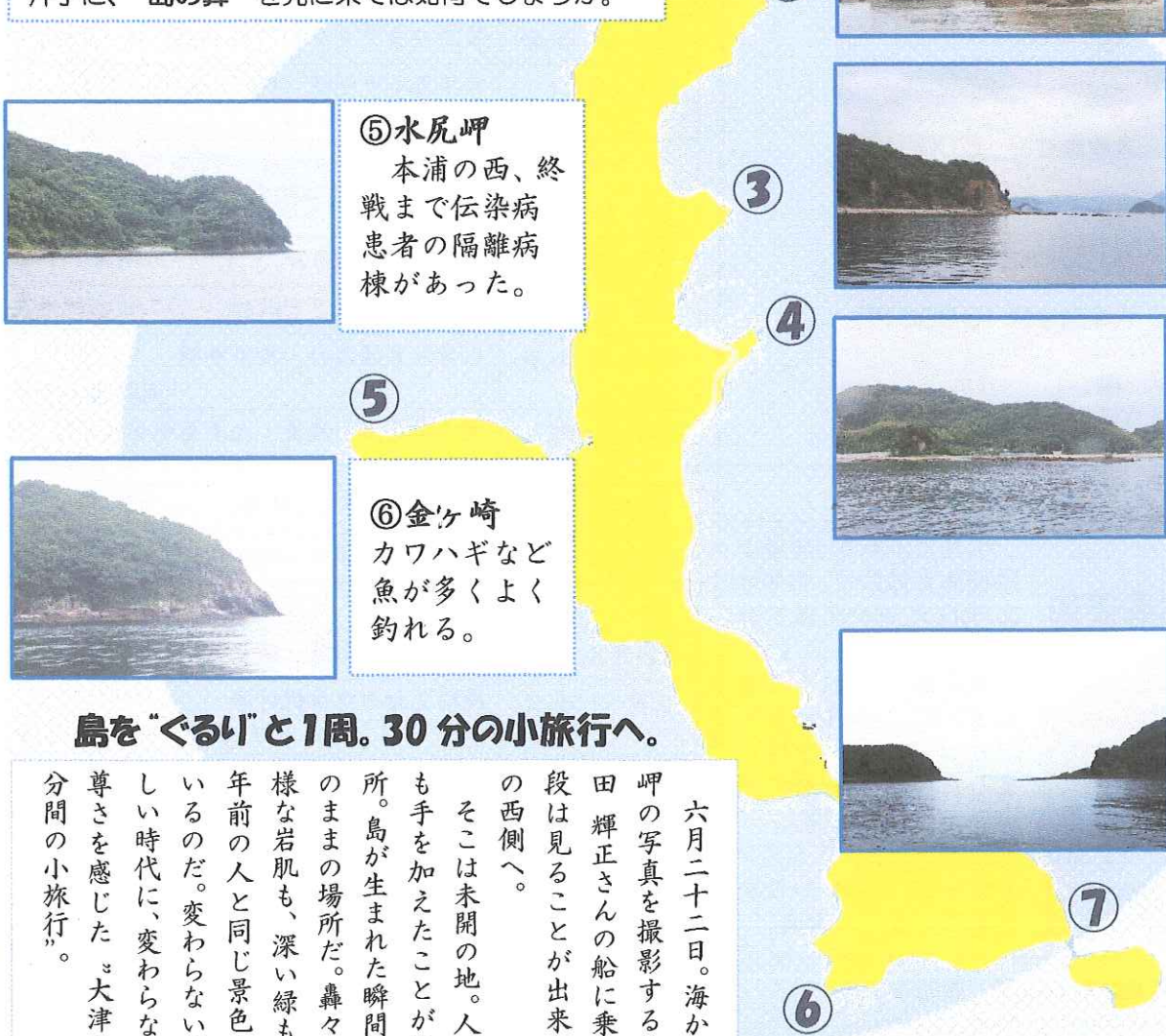
⑤水尻岬
本浦の西、終戦まで伝染病患者の隔離病棟があった。



⑥金ヶ崎
カワハギなど魚が多くよく釣れる。

島を“ぐるり”と1周。30分の小旅行へ。

六月二十二日。海から見た岬の写真を撮影するため石田輝正さんの船に乗り、普段は見ることが出来ない島の西側へ。
そこは未開の地。人が一度も手を加えたことが無い場所。島が生まれた瞬間からそのままの場所だ。轟々と唸る様な岩肌も、深い緑も、数千年前の人と同じ景色を見ているのだ。変わらない事が難しい時代に、変わらない事の尊さを感じた。大津島三十分間の小旅行”。



①横島
近江の横島、丸山は、夕日に映える美しい場所。



②亀ヶ鼻
瀬戸浜。亀型の一对の岩に見事な亀2匹。



③帝岬
昔、手作業で採石を行っていた。沖まで箕(ミノ)の跡がある。



④銭橋
昔は、瀬戸貝、アサリなど豊富だった場所。



⑦水場鼻
山からの豊かな栄養を含んだ水が流れ込む。

2014
7月号
No.238

大津島(平成26年6月1日現在)
人口 334人(男142人 女192人)
高齢化率 72.8%

取材：屋野 / 取材協力：石田輝正さん

大津島の人々 (6)



足立 勇治 (あしだて ゆうじ)さん
元電報配達員。
本浦出身。大正13年生まれ。90歳。

Q 勇治さんの若い頃は？
A 今住んでいる家は、祖父が建てたもの。私が生まれたのも今の家で、およそ築百三十年以上経っている。
十代の頃、馬島に軍事基地を造る仕事の手伝いに行ったりもした。まだその頃は、大津島と馬島をつなぐ道は、現在よりもかなり狭く、日本軍が来てから、道幅が広くなった。
やがて戦争が始まり、私も光市の海軍工廠へ行き、中国の南京へ行った。そのまま終戦を迎えた。
南京から上海へ移動し、船で福岡へ渡り、汽車に乗り徳山に帰ってきた。当時は、徳山駅から港までの道は、人で溢れていた。
Q 島に帰ってからは？
A ずっと百姓をやりに、米、麦芋を作っていた。米は対岸の防

府市にある田まで、船に牛を乗せて「出耕作」をしていた。エンジン船を買うまでは、伝馬船で槽を漕いで行った。
農業の傍ら、島内施設の建設も手伝った。ふれあいセンターや、海水浴場の階段も造った。四十歳から二十五年間、電報配達員を務めた。
Q 電報配達員とは？
A 郵便局に電報の受信機があり、その電報を大津島全体に届ける仕事。始めた当時は、島に電話が二軒しかなかったため、遠方の家族や恋人と連絡を取る手段は、電報しかなかった。全盛期は、一日四通。一月百二十通の電報を届けたこともあった。当時は、馬島の遠方漁業に出ている漁師さんが、下関まで家族を呼ぶために多く使っていた。
正月の挨拶の電報が特に多く、夜明け前に家を出ても、すべて配り終えるのは昼頃だった。
移動手段は「徒歩」のみで、馬島まで歩くと往復二時間かかった。家に帰ると次の電報が入っていることも多々あった。電報の仕事のおかげで、若い頃は随分歩いて体を動かした。それが今、元気でいる秘訣だと思う。(聞き手・文 大友)

季節の俳画
さくらんぼ
梅雨晴ぬ
忘ぬけ
はふち
安達 辰子

うっとうしい梅雨の合間の晴天時に。夏座敷に模様替え。頂いた甘酸っぱいさくらんぼの美味しかった事。疲れもふきとびました。
柳と魚

清涼をもとめる暑い夏へと移り替わります。ひたすら暑さだけが身に染みる夏です。柳に風をあしらえて涼しげな風情を出してみました。

海

の街道・十二

【船の話】

ここいらで昔の大型船について話しておきたい。その姿を想い描くことによって、海の街道のイメージがより鮮明になると思うからだ。
一昨年五月、大学同期会の旅行で佐渡へ行った。宿根木という古い港町があり、そこで復元された舟才船・白山丸を見た。残されていた板図に従って江戸時代の船を実物大で復元したもので、帆走も出来る。白山丸は五百石積だが、米一石は百五十キロだから、積載量七十五トンとなる。全長二十四、最大幅七メートル強で大津島フェリーと大体同じ大きさである。直径六十センチ強で高さ二十メートルを超える帆柱や、厚さ三十センチの底板など、巨大な木材とその加工技術に圧倒される。
舟才船(べざいせん)は俗に千石船といわれるが、室町期から始まり江戸期に最盛期を迎えた日本独自の技術による大型船である。二百石から二千石積までいろいろな大きさの、膨大な数の舟才船が日本列島の周辺を航海して江戸時代の経済を支えた。
宿根木は北前船と呼ばれた回船業が盛んで、昆布など北海道の産物を、日本海を通過して関門から瀬戸内海へ入り、大阪へ運んでいた。帰り便は、船の安定のためにもあって瀬戸内海の御影石を積んだという。佐渡では採れない御影石が、そこでは数多く見かけられる。千石船の船員数は十二、三名というから、七人墓や十人墓の遭難船も中型の舟才船であったと思われる。



「白山丸」佐渡・宿根木

文＝末兼正純

大津島の怪談

其の壱

「飛びこむ女」



絵・文 渡邊 あゆ子

これは、私の母方の祖父が体験した話です。夜釣りを終えて、海辺の小道を、祖父は一人で歩いていました。月も無く、あたりは真っ暗でしたが、若かった祖父は気にもせませんでした。

「南無阿弥陀仏」
波の音に混じって、声が聞こえました。声のした方を見ると、長い髪の若い女が、白い着物を着て、岩の上に立ち、両手を合わせています。今時分、いったい何をしているんだといぶかしんでいると、

「ぼっちゃん」
女は、見る間に海に飛び込んだのです。

「身投げじゃ！」
祖父はとっさに人を呼ぼうとしましたが、間に合わないと考え、女が飛びこんだあたりの海に入って、その姿を探しました。

ところが、いくら探しても見つかりません。すると、そんな祖父のすぐそばで、

「南無阿弥陀仏」と、また声がします。

見ると、先ほどの女が岩の上に立ち、手を合わせているのです。そしてまたぼっちゃん、と飛び込みました。

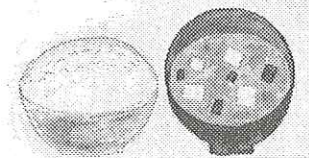
あわててまた探すと、また「南無阿弥陀仏」と唱えながら岩の上にいるのです。

さすがにそうなる祖父は興味悪くなってきました。

「こいつは人間じゃないぞ」

祖父は、大切な釣竿も魚も放っぽり投げて、一目散に家に逃げ帰ったということです。

知っちよるかね



「いただきますあす」

文＝松本 千恵子

が用ができて、何か買えちゆうてくれた金で食パンを一斤買って妹や弟と練り堀の上で並んで食べた。旨かったのう」

「昔、麦ばっかりの飯が

「ワシらあはイモで大けえなつたんでようのう。朝昼晩イモでおやつもイモでも、他に何にも無あんけん、まっ、イモいのう」

「じゃから、盆やらなぬか日に炊あてくれるまんじゅうが楽しみじやった。大ぞうけにいっぱいあつてもすぐ無あようになりよった」

「私はばあちゃんが作ってくれたトウガキの葉に包んだ混ぜ飯のムスビ。田やら畑が忙しい時は、子供の間倒どころじやないから、ムスビを持って一日遊ばされる。夕方までに風呂水を汲むだけが仕事じやったから、よう遊んで昼に食べるムスビが楽しみじやったね」

毎日じやった頃、大阪から戻った従兄弟が『大阪はまいひに銀飯ばかりでよ』ちゆうて威張った時は、まあ羨ましかつたのう」月日は過ぎてても子供の頃食べた物の話になるといつまでもはずむちゃあね。私事じやがこの前からガシやあないかちゆうて検査をしようとしたある日の夕食時。人生最後に食べた物って何じやろうって考えたんよ。暫く考えてこれでもいいなと思つた。やちもなあ事を話しながら笑つたり食べたり、ええものを食べんでも、家族が揃つている今がご馳走。有り難くないだきまあす。くあとがきくガンじやなかつたからね。

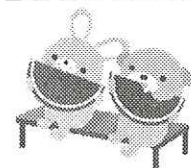
◇平成 26 年度 大津島の主な行事予定表◇

日程		
7月8日(火)	老人大学	～馬島公民館
7月19日(土)	刈尾海水浴場海びらき	～刈尾海水浴場
8月15日(金)	若潮の会アイランドカップ	～海の郷
8月24日(日)	大津島小中学校 親子ふれあい作業	～大津島小中学校
9月6日(土)	大津島歌謡ショー	～大津島小中学校
9月15日(月)	敬老会	～本浦 海の郷体育館
9月20日(土)	第23回大運動会	～大津島小中学校
9月29日(月)	須金老人クラブ交流会	～須金観光農園
10月10日(金)	人権教育講演会・授業参観	～大津島小中学校
10月14日(火)	食生活改善推進員・大津島中学校料理教室	～大津公民館
11月1日(金)	第28回大津島文化祭	～大津島小中学校
11月14日(土)	大津島小中学校 ふれあい遠足	
12月7日(日)	第25回大津島ポテトマラソン	
12月9日(火)	文化庁巡回公演 狂言	～大津島小中学校
2月11日(日)	建国記念の日奉祝行事	～大津島ふれあいセンター

天候などの影響により、変更する場合があります。詳細は、大津島支所(85-2001)まで、お問い合わせ下さい。

移動図書館<やまびこ号 Jr.>

7月18日(月) 8月6日(水)
●馬島巡航待合所 13:00～13:30
●刈尾巡航待合所 13:50～14:10



～事務局からのお知らせ～

大津島地区社会福祉協議会よりお礼
平成26年度善意銀行へのご寄付をありがとうございます。

●預託者 石丸 美枝 様
亡夫 石丸 求 様の香典返しとして、
金20,000円
(市社協 4,000円、大津島社協 16,000円)

●預託者 石丸 美枝 様
亡子 石丸 守 様の香典返しとして、
金20,000円
(市社協 4,000円、大津島社協 16,000円)

●預託者 宗 シズノ 様
亡夫 宗 正雄 様の香典返しとして、
金50,000円
(市社協 10,000円、大津島社協 40,000円)

編集後記

北部地区球技大会参加



6月22日(日)須磨小学校体育館にて、北部地区球技大会が開催されました。大津島からは、24名が参加し、ソフトバレーとカローリングを行いました。結果は…皆で良い汗かけました(笑)。次は、8月のアイランドカップ。またいい汗かきましょう! 大友

大津島の最新情報 更新中!!
<http://shunan-inaka.jugem.jp/>

◆発行 第238号一平成26年7月1日一
大津島地区コミュニティ推進協議会
事務局 大津島支所 周南市大字大津島1361-4 TEL 0834(85)2001

次回発行日
平成26年 9月1日—第239号

～若潮の会通信～



文＝古城 昭彦

高校を卒業してすぐに県外に出て、島の事とか全然関心無く、5～6年前に徳山に帰って来ました。

島でポテトマラソン大会してたなあ～と思ひだし、2、3回ハーフマラソンを走ったこともあるので、「冷やかしか気分マラソンに参加してみよう」。島を走るの中学生以来だが、10キロくらいなら何とかなるかも。

大会当日は、同級生や知り合いがボランティアで参加して。地元でもあるので、走っているといっぱい声援をもらい「ありがとうございます」完走できました。

何回かポテトマラソンに出場していると、友達が「ボランティアに参加しているメンバーで会合をするけど、参加しいや」と言われ、「ボランティアやないけど…」と思いつつも参加しました。

会合では、反省と今後について、島を盛上げるために会を作ろうという話になり、「若潮の会」が出来。今は、島内で行われる様々なイベントに参加しています。

まずは、島を盛上げようとか、何とかしたいと思わず、気楽に、冷やかしても、同窓会、観客、何でもいいので、「みんなで」バカ騒ぎして「遊ぼうやあ」

～島のつづき～



「みらいのしま」

文＝屋野 廣志

潮流の表紙づくりの取材のお供をして、島を海上より一周する周囲約二十キロ。細長き島は日本列島の縮図だ。見慣れた風景もあらためて眺めれば楽しい。刈尾港を西に周り、帝鼻を天下の良港と思う。大泊、昔から帆船の停留港。満干の具合で潮の流れが入航し易く出航し易く、錨のかかりが良い。造船修理場もあり、遠浅の浜は船掃除に適している。

山の雑木竹林は、海に迫り田の浦にと続く。海沿いには、3m幅の道路をめぐらし、フルマラソン大会を開催。遊漁者も喜ぶ。田の浦より小崎に至る海には定置網を。漁船有り。小崎、病院鼻へと渡り、大さかたつと思ふ「五ツ島」は尖閣島を思わす。あれは宮イチゴ、独島ではないぞ。細折の入江はハマチの養殖網。回天の入江には鯛の養殖。金ヶ崎より洲島に至る大規模な漁礁を造り、大津島全体の山中には、古道あり慣行道あり、山道あり。その道を復元し、防災線と名付けてマウンテンバイク競技にも利用。

出来るなら、白浦の沖のテトラポットに堤防が欲しい。天然の良港も、更に小型船・中型船の避難所やヨットハーバーとして活用。釣り客の多い瀬戸浜は亀ヶ鼻を生かし、蛙島周囲を遊漁地にし、北の親子瀬を利用する。更に横島、丸山に海を生かした保養地を。

そんな未来の島を想像してみる。